

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

次いで、関係構築の重要性です。儀礼的な行事や式典への参加をとおして、日本ではビジネスにおいて信頼と個人的な関係が重視されていることをはつきり認識しました。これは、他の国々で見られる取引中心のスタイルとは対照的です。

今回の日本訪問は、複数の点で目を見張るものでした。まず、ビジネス上のエチケットと文化に関して。時間厳守と名刺の丁寧な交換が果たす重要な役割を観察して、日本のビジネス文化における公式の場での型とプロトコルについて理解を深めました。

日本への期待
世界各地から

88

さらに意志決定における合意形成のとり方です。日本企業の包括的な意志決定プロセスを目にする中で、ビジネス取引において調和がとれた合意形成を構築することの重要性を教えられました。またものづくりにおけるイノベーションの重要性です。トヨタ自動車関係企業や三菱電機などの優れた製造現場を訪問することで、伝統的な習慣に基づく仕事と最先端のテクノロジーを統合し、継続的な改善(カイゼン)の運用と作業の卓越性を見ることができました。

ウクライナ訪日団から(下)

視察参加者は、多くの肯定的なフィードバックを寄せています。ウクライナ自動車・モビリティ・クラスター(UAMC)加盟のウクライナ最大の電子機器製造請負会社の開発責任者は、「日本訪問の旅は本当に素晴らしい旅でした。日本の文化、人々そして食べ物にほれぼれしました。尊敬と感謝の気持ちで、日々の活動やビジネス慣行にどのように織り込まれているかを知ることができ、啓発されました」と述べています。

燃料タンクや空調システムなどを製造する企業の経営責任者は、「多くの経験豊富な専門家の指導を受けたことや、日本の優秀な企業の経営陣と交流できたことはたいへんよい



左端が筆者。左から2人目はコルスンスキー駐日ウクライナ大使

かったです。これらの経験が、私たちのビジネスへのアプローチに大きく影響を与えると信じます」と話しています。日本訪問での経験を振り返り、今後に向け文化的な背景も考慮し、次のような三つの取り組みから明確な将来を設定することができそうです。

- (1) じっくり継続し、仕事を徹底することから関係構築を心がけること。
 - (2) コミュニケーションにおいては、既存の慣習や方式・形式を尊重すること。
 - (3) 短期的な利益でなく、協調的な合意と長期的なパートナーシップに焦点を当てること。
- 要約すると、この日本訪問は、単なる個々の訪問の連続以上のものになりました。それは、伝統と革新を巧みに融合させた文化への深い理解でした。得られたのは、専門的な実践に寄与するだけでなく、国際ビジネスにおける複雑な状況を切り抜け、成功するために必要な理解となりました。煎じ詰めると、ウクライナと日本の企業間での永続的なパートナーシップと継続的な相互尊重のための強固な基盤を築いたということです。
- 【オルガ・トロフィモワ、リーム中産連】
(月曜日に掲載)

パートナーシップへ強固な基盤構築